

平成 30 年度(2018 年度)

日本特別活動学会 第 5 回 実践事例募集事業

推 奨 実 践 事 例

事例番号 5-8

文化祭における生徒の活動量をふやすための仕組みづくり

大阪府立貝塚高等学校 谷 昌 之

実践テーマ	文化祭における生徒の「活動量」を増やすための仕組みづくり
実践区分 ○囲み	学級活動・ホームルーム活動 児童会・生徒会活動 クラブ活動 学校行事 その他(具体的に、)
実践事例の 背景、ねらい、 意義など	<p>筆者の着任当時、同僚から「生徒は放課後に残らない」と言われてきた。その生徒たちを、いかにして学校行事への取組みに導くことができるか、という課題を設定して実践を重ねてきた。</p> <p>「生徒にも教員にもきちんと情報提供をする」「“ジェットコースター”モデルによるサポート体制づくり」「リーダーへのエンパワーメントと活動の多面化によるクラスのチーム力の育成」「準備活動のプロセスを大切にすると」いった方針を掲げて、文化祭の活性化に取り組んだ。</p> <p>取組み内容と行事運営を工夫し、特に「文化祭ハンドブック」や「文化祭実行委員会(キックオフミーティング)」などの活動初期に対する工夫は効果を生み、文化祭の取組みを活性化させた。年々、改良を加えながら取組みを深めた結果、舞台部門では、3年生が中心となり、生徒が台本作成から演出までを手がけるクラス演劇が上演されるようになった。生徒会執行部によるアンケートでは「文化祭が楽しかった」と答えた生徒が98.9%となった。</p>
実践の時期	平成 30 年 11 月 (報告は平成23年からの経過を含む)

1 はじめに

本校は1941年に開校し、普通科・家政科・園芸科としての経験や設備をいかし、生徒の興味や進路に応じた多様な専門科目を展開する総合学科として2004年に改編された。私は2010年に着任し、2011年から生徒会指導部に所属し、総合学科8期生の担任として、文化祭を中心とした学校行事の活性化と生徒の自主性を高めるための取組みを続けてきた。

着任当時の本校に対する印象は「文化祭よりも体育祭が盛り上がる学校」であった。体育祭は競技中心の内容で勝敗がわかりやすく、エネルギーを発散する場として機能していた。それに対し、文化祭は準備活動への意欲が乏しく、直前の準備や当日だけを楽しむ風潮が見られた。生徒はそれなりに達成感を感じているようであったが、プロセスを伴わない一時的なもののように感じられた。それはクラスの出展内容にも現れ、担任の経験や力量による部分も大きかった。同僚からは「放課後に生徒が残らない」「行事の時に校外に抜け出そうとするので警備を強化している」「文化祭は踊るか食べるだけ」といった声が聞こえてきた。

2 文化祭の概要

本校の文化祭は10月下旬から11月上旬に、1日のみで開催される。部門は「舞台発表」「飲食バザー(2・3年限定)」「展示・バラエティ」の3部門から構成され、各クラスは、最低1つに出展することが規定されている。

3 状況の分析と仕組みづくりの課題

まずは、生徒が文化祭に向かわない理由について検討した。「アルバイトが忙しい」「行事に期待や満足をしていない」「外部非公開のため、友達を招待できない」といった背景が見えてきたが、生徒と接する中で多くの者が「やってみたい」という想いを持っていることがわかってきた。生徒の想いに触れる中で「何をやっていいのかわからない(見通し)」「リーダーがない(チームづくり)」「どうやってやるのかわからない(技術)」が不足しているということが見出された。

これらの分析から、「生徒が『しない』のではなく生徒たちに『やらせていない』のではないか?」という課題を得ることができた。そこで、活動の設定を見直し、「何をどのように頑張らせるか」ということを意識して文化祭運営の仕組みを改善していくことにした。

4 方針とポイント

特別活動の重点である“生徒会による自治的な運営”をめざしたいところではあるが、まずは「生徒の活動量を高める」ことを目標に、次の4点を掲げて取組みを進めた。

① 生徒にも教員にもきちんと情報提供をする

文化祭の準備から当日までの全般において、生徒、教員ともにできる限り同じ内容の情報を提供し、「生徒が知らない、担任しか知らない情報」をできる限り減らすようにした。このことによって、活動の見通しを持てるようにするとともに、活動への不安を除去した。

② “ジェットコースター”モデルによるサポート体制づくり

様々な場面において、取組みの序盤で手厚いサポートを行い、徐々に手を引きながら生徒たちに任せるようにした。イメージとしては、ジェットコースターがチェーンで高く引き上げられた後、アップダウンを繰り返しながら自力走行をするような姿を想定した。

③ リーダーへのエンパワーメントと活動の多面化によるクラスのチーム力の育成

クラスのリーダーに対して説明会や情報交換会を頻繁に開催して、クラス活動を活性化させるためのサポートを丁寧に行った。あわせて、クラスの様々な生徒が活躍できるようにクラス企画の出展だけでなくスモールステップを意識した様々な取組みを加えた。

④ 準備活動のプロセスを大切にす

当日だけではなく、それまでの準備活動のプロセスにおける生徒の成長に重点を置いた。具体的には文化祭企画 HR (クラス討論) や部門エントリー用紙・企画書などの導入である。

5 取組み内容の工夫

(1) クラスパネルの導入

ベニヤ板に角材で枠と脚を取り付けたパネルを製作した。そこにロール紙を貼り、クラス企画の宣伝を描いて掲出するようにした。これは、各クラスの絵や工作が好きな者が動き出すきっかけを作り、文化祭の準備活動における「ものづくり」の活性化を狙って導入した。年を追うごとに描画だけでなく立体化も進み、文化祭の会場を彩る効果も得られた。

(2) モザイク壁画の導入

生徒に「文化祭に関わった」という意識を持たせたいということねらいとして、全校生徒が A4 用紙 1 枚程度の原画を塗ったものを張り合わせて、巨大モザイク壁画を製作した。1人ずつの作業はそこまで大きなものではなく、ペン、ハサミ、のりなどの道具類が教室に登場するきっかけとなった。貼り合わせ作業は有志を募って行なったが、各学年のものづくりの好きな生徒が“職人”として活躍し、生徒の普段とは異なる一面を知ることができた。

6 行事運営の工夫

(1) 「文化祭ハンドブック」の作成

教員向けに、文化祭に関するルールや当日までの流れを示した資料を職員会議などで配布して運営してきた。できる限り教員と同じ資料(ルール)を生徒と共有するために「文化祭ハンドブック」を作成した。主な掲載内容は次のとおりである。

第1部 概要 (ルール)	第2部 企画決定まで	第3部 部門のルールアイデア集
第4部 その他の取組み	第5部 諸注意	第6部 貝高祭までの道のり
付録 HR で実施するアンケートの見本		

ルール以外にも「HR 討論の進め方」「アンケート見本」「スケジュールカレンダー」「出展

内容のヒント」などを、写真やイラスト、図表をたくさん用いて掲載し、教室にも吊ってもらうことで“みんなのルールブック”とした。

(2) 文化祭実行委員会（キックオフミーティング）

9月の文化祭企画HRに向けて、各クラス学級代表2名＋文化祭実行委員2名の計4名を集めて会議を開いた。「文化祭ハンドブック」を用いて文化祭の概要とクラス企画を成功させるためのコツを伝えた。工夫としては、各クラスの参加人数を2名でなく4名にしたこと、学年別に開催したことがあげられる。前者は学級代表2名だけのリーダーシップによるクラス活動の展開が望めないことから、4名を中心にクラスで声をかけて“クラス実行委員会”を組織する「集団リーダー体制」を構築することを狙ったものである。後者は学年によって、留意点や力を入れるべき点が異なることから、3回に分けて開催することにした。このことによって、出席したリーダー達のニーズに応じた内容を的確に伝えることができた。

(3) 1年生へのイメージ付け

1年生は、高校最初の文化祭となることから、学年集会などの機会に、写真や動画を多用して文化祭のイメージやルールを伝える場を設けた。これはリーダーではない生徒にイメージや意欲を持ってもらうことで、文化祭企画HRに臨むリーダーに対するエンパワーメントの効果をもたらした。本年度からは、教室にあるプロジェクターなどを活用して、写真データや簡単な台本を提供することで、リーダーが自らクラスに向かって文化祭の概要を説明する取組みを展開し、リーダーの存在をみんなに認識してもらうなどの効果を得ている。

(4) 部門エントリー用紙と生徒会執行部員を交えた企画審査

クラスの参加部門を学年によって指定することはせず、クラスの文化祭企画HRでの審議を経て、部門にエントリーするという形式を取った。審査を受けるためにエントリー用紙を仕上げるという明確な目標が各クラスに生まれ、HRが活性化した。また、各クラスの参加部門決定に際しては教員に生徒会執行部員を加えて審査会を実施し、審査結果の各クラスへの伝達を教員のフォローのもと、執行部員が行うことにした。審査によって希望した部門に参加できないかもしれないという緊張感がHRをさらに活性化させ、生徒会執行部の参画によって自分たちが文化祭を運営していくのだという意識を醸成することにつながった。

7 まとめと今後の展開

紙幅の都合で割愛したが、各部門でもここで述べた方策を踏まえた取組みが展開された。3年生が中心となる舞台部門では、様々な技術講習会を展開することで、生徒が台本作成から演出までを手がけるクラス演劇が上演されるようになった。生徒会執行部によるアンケートでは「文化祭が楽しかった」と答えた生徒が98.9%となった。生徒が文化祭に取り組む伝統ができた今、さらに生徒による自主的な運営へと挑戦していきたいと考えている。